グリーン四国

四国森林管理局
高知市丸ノ内１丁目３－30
ＴＥＬ088－821－2052
ＦＡＸ088－821－4834
ホームページアドレスhttp://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/
電子メール shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp

四国山の日

No.1126　2014年１月号

迎春

夜明峠から見た石鎚山（愛媛県西条市）

年頭のあいさつ

四国森林管理局長　新　木　雅　之

明けましておめでとうございます。

昨年は、政府の成長戦略が策定される中、林業についても成長産業化に向け、中高層建築での利用が期待されるＣＬＴ（直交集成板）等の開発普及による新たな木材需要の創出や、公共建築物の木造化、木質バイオマスの利用、木材利用ポイント事業を通じた地域材の利用促進、需要者ニーズに的確に対応した国産材の安定供給の構築等を進めることとされました。

このような中、四国では、高知県大豊町の大型製材工場が八月に操業を開始し、また徳島県小松島市で大型製材工場の建設が九月に開始され、さらに高知市、宿毛市等で木質バイオマス発電の計画が進められるほか、産官学によるＣＬＴの開発普及の取り組みが始められる等、森林・林業の活性化に向けた数々の動きが見られました。

一方、国有林野事業については、昭和二二年以来長きにわたり特別会計で運営しておりましたが、法律改正により昨年四月から一般会計で実施する事業に移行しました。これに伴い、国有林の公益的機能の発揮をより一層重視した業務運営を行うとともに、民国連携を強化し、民有林振興、地域活性化に更に貢献することと致しております。このため、四国森林管理局においても本局に業務管理官（次長）、徳島、愛媛、安芸の各森林管理署に地域林政調整官を設置する等の組織改正を行ったところです。

明けて新年においても、引き続きこのような方針の下、「新生国有林」としての業務運営に取り組んで参ります。

特に四国の国有林は四国山地の奥地脊梁部に多く存在していることから、水源涵養、国土保全、地球温暖化防止等の公益的機能の十全な発揮に向け、多様で健全な森林の育成や、国民の皆様の安心・安全を確保する治山事業を積極的に推進するほか、関係機関と連携しつつ地域の状況に応じたシカ被害対策に取り組みます。

また、低コストで高効率な施業による安定的・計画的な木材供給を図るとともに、大口需要者向けのシステム販売の適切な運営を図り、地域材の需要拡大を支援して参ります。さらに、民有林と連携した森林共同施業団地の推進、国有林の組織・技術・フィールドを生かした先進技術の開発改良、フォレスター等の人材育成に取り組みます。

そして、豊かな国有林の環境をレクリエーションや森林環境教育等の場として提供するとともに、国民の皆様の森林・林業・木材利用へのご理解を深める普及活動に努めます。

新年においても「国民のための国有林」として、皆様のご期待ご要望に応えられるよう努力しながら、地域と共に歩んで参る所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

「佐喜浜の源木を育てる会」

林野庁長官感謝状贈呈される

～国民の森林づくり推進功労者～

〈総務課・安芸森林管理署〉

一二月五日、国民の森林づくり推進功労者として、当局から推薦しました「佐喜浜（さきはま）の源木（げんき）を育てる会」【会長　田村　拓】への林野庁長官感謝状の贈呈が高知県室戸市役所において、吉永計画保全部長より行われました。

感謝状贈呈後：右から吉永計画保全部長、永山安芸署長、田村会長、高田氏

「佐喜浜の源木を育てる会」は、高知県室戸市佐喜浜町の地元の有志が集まり、地域の活性化を促進すると共に地元小中学校児童生徒の健全な育成を支援することを目的に発足しました。

「育てる会」では、海、川、山、伝統文化をそれぞれ「宝」として守っていき次世代に残していくこと、そして地域外の人にも佐喜浜町を知ってもらい、地域を元気にするために、海、川、山等を活用し、海の宝では、「大敷網を使った漁の体験」、ホエールウォッチング、川の宝では、林間学校での川遊び等様々な体験活動を行っています。

山の宝では、江戸時代の参勤交代にも使われた古い歴史のある野根山街道、大規模崩壊の後、治山事業で緑に回復した「加奈木のつえ」、また、佐喜浜川上流の野根山街道に続く段ノ谷山（個性的な外観を持つ巨大天然杉）を活動の場としており、年間、小中学校を対象に森林環境教育を五回、約四〇〇名、一般見学者を対象としては、随時開催で、延べ約三〇〇名の見学者の案内を行っています。この大半が安芸森林管理署管内の国有林です。

また、平成二三年には室戸ジオパークが世界ジオパークに認定され、「加奈木のつえ」と段ノ谷山がジオサイト（見所）に登録されました。

このことを機会に、段ノ谷山等には、多くの見学者が訪れ、なお一層、「育てる会」の活動が期待されるところです。今後も、「育てる会」と安芸森林管理署が相互に連携協力し、森林環境教育及び森林散策などを実施し、段ノ谷山等に多くの方が訪れ交流することにより、地域の活性化及び国有林への貢献度が高いことなどが認められ、感謝状授与に至ったものです。

悟空杉（段ノ谷山の巨木）

木質バイオマス
現地検討会の実施
〈資源活用課〉

高知県内で計画されている木質バイオマス発電事業の取組の中で、国有林のフィールドにおいて、未利用間伐材等の供給に係る現地検討会を、一二月一〇日～一一日に四万十森林管理署管内で実施しました。現地検討会は、資源活用課、四万十署、高知県、関係団体から一二名が参加するなかでの開催となりました。

また、現地検討会では、立木販売箇所や保育間伐活用型事業箇所等で、林内に残っている末木枝条の現状を確認するなかで意見交換を行い、木質バイオマス原料となる林地残材の搬出方法等について、供給側、需要側それぞれの視点で検討を深めました。今後は試行的な取組として、林地残材の効率的な搬出方法などデータ収集等について国有林を活用して取り組むことなど、多岐にわたる意見交換を実施しました。

なお、今後もそれぞれの課題を更に掘り下げ検討を進めていくこととしており、引き続き情報交換等を行いながら、国有林として木質バイオマス発電事業の円滑な推進に協力していくこととしております。

現地検討会

木を使ったおもちゃ遊び及び木工教室
〈技術普及課〉

一一月二四日、高知県土佐市立高岡第二小学校において、木を使ったおもちゃ遊び及び木工教室を実施しました。

これは、校区のイベント「第八回山の手ふれあいフェスタ」の体験学習コーナーの一つとして、実行委員会から四国森林管理局に、木を使ったおもちゃ遊びと、木工教室の依頼があったものです。

当日は、木を使った特殊なけん玉など、八種類のゲームをクリアすると、「木を使ったゲームの達人」に認定され、「ジージーゼミ」を作る木工教室に参加できるコーナーを設け、幼児から中学生約二〇〇名がゲームに挑戦しました。（幼児や園児は作ることが難しいことから、完成品をプレゼントしました）なかには、付き添いで来られていた大人が、「なかなか難しい」と真剣な表情で、子どもと一緒に挑戦していたり、難しいゲームに失敗しても諦

木工教室

めず、何度も頑張ってチャレンジしてくれる子、「また参加しに来た」と言って何回も楽しんでくれた児童もいて、大盛況でした。

また、木製ゴム鉄砲射的大会を四回開催し、約五〇名の児童達が一等賞品（木製メダルとゴム鉄砲）を目指して参加してくれ、大変な賑わいとなりました。

今回のイベントでは、児童のみならず、幅広い年代の方々に対して、木の良さを体験してもらい、国有林野事業のＰＲにも努めることができました。

神田小学校で『一日先生』

〈技術普及課〉

一二月一日、高知市立神田小学校において木工教室を行いました。

このイベントは、各学年のＰＴＡが主催し、「一日先生」として、色々な職種の方々を講師として招くものです。今回は、一年生から要請を受けました。

当日は、児童八四名、その父母九〇名、先生三名と大人数ということもあり、いつもと趣向を変え、森林の役割や大切さについて「〇×クイズ」形式にした森林教室を行いました。一年生には、少し難しい問題もありましたが、一人で一生懸命考える子、親子で悩む子、難なくすらすらと答える子、と様々で、一問ずつ答え合わせをする度に、「やったー」「あー」と歓声が上がり、大変な盛り上がりでした。当初の心配をよそに、全問正解者が九名もいて、補足説明も熱心に聞いてくれていました。

木工教室は、糸電話を応用した「ジージーゼミ」を作りました。作製する前に、このセミがどうしてなくのかの説明から入り、回し棒に松ヤニを塗ったものと塗ってないものや、竹ではなく、木で作ったセミを実際に回して比べてみたり、糸電話を使って音の伝わり方を学習してからセミを作りました。セミの羽根に苦労している子もいましたが、子ども達は早くセミをならしたかったのか、あっという間に完成させ、体育館中に響き渡る、真夏さながらの八四匹のセミの大合唱となりました。

最後は、ＯＢ正岡さんの手作りの木のおもちゃ（パズルやゲーム、けん玉など）で皆が思い思いに遊んで終了しました。こちらも、木製で、しかも手作りということで、父兄からも大変好評でした。

子ども達の笑顔から木に興味を持ってもらえたようで、短い時間でしたが、木の良さが伝わったのではないかと思う一日先生となりました。

木工教室

各地のたより

滑床山の順調な植生回復を確認

〈ふれあい推進センター〉

好天に恵まれた一〇月二二日、滑床山頂（通称三本杭）において関係機関、ボランティア団体等の関係者二八名が参加して、第九回滑床山植生回復検討会を開催しました。

滑床山頂周辺は、愛媛県宇和島市及び松野町、高知県四万十市にまたがり、かつてはミヤコザサやオンツツジが群生していましたが、平成一二年頃からニホンジカの食害により裸地化したことから、当検討会を平成一八年六月に立ち上げ、ボランティア等の協力も頂き山頂周辺の植生回復に取り組んでいます。

「滑床山頂」での意見交換

九回目となる今回の検討会では、平成一九年三月にシカ防護ネットを設置した「たるみ」及び「滑床山頂」に移植したミヤコザサが順調に拡がり繁茂していることや、現地にある枯れ木などの資材を活用した簡易な土留め措置によって、リョウブやウリハダカエデなどの稚樹の発生を促し、土壌の流出防止の効果が現れている状況などを確認しました。

当センターからは、吊り尾根の「熊のコル」周辺等のギャップに、シカ防護ネットを設置すること、「山頂」や「たるみ」及び「藤ヶ生越」のネット内は、植生が順調に回復しており、経過を観察していくことを提案し了承されました。

また、滑床山頂周辺でニホンジカによる剥皮被害などを調査している（独）森林総合研究所四国支所から、ネット外では継続的に食害が発生していることや、ニホンジカの生息密度は依然として自然植生に大きな影響を及ぼす高いレベルにあることなどが報告されました。

「たるみ」で植生の回復を確認

出席者からは、ハンターの捕獲での個体数調整とシカ防護ネットの設置等、引き続き関係者が連携してシカ対策に取り組む必要性などについての意見が出されました。

当センターは、モニタリングを継続しシカ防護ネットの保守点検等に努め、関係者、ボランティア等と協働して植生回復に取り組んでいくこととしています。

紅葉の八面山・ブナ林は人気のフィールド

〈ふれあい推進センター〉

一〇月から一一月は各地の小学校から森林環境教育の支援要請が集中しますが、なかでも、四万十川の支流である黒尊川源流域の森林、八面山登山は、例年、人気のイベントです。今年も、高知県四万十市の西土佐小学校・東中筋小学校・八束小学校及び宿毛市の山奈小学校、愛媛県松野町の松野西小学校の五校、合計約百名を対象に実施しました。登山道沿いの樹木やニホンジカの食害などを説明しながら、八面山山頂（一，一六五m）を目指しました。次の、目的地であるブナ林へ移動して、職員が、水源かん養機能等の森林の持つ様々な働きを説明した後、ネイチャーゲーム「カモフラージュ」と「フィールドビンゴ」を実施しました。

森林の働きでは、八面山に降った雨が黒尊川から四万十川に流れ込み、私たちの暮らしとつながっていることなどが理解できた様子でした。また、ネイチャーゲームでは、実際に樹木や森林の土、落ち葉等に触れたり、踏みしめるなどして身体全体で自然を体感して自然の大切さ、良さを十分感じてくれたことだと思います。

西土佐小学校

東中筋小学校

八束小学校

山奈小学校

松野西小学校

黒尊渓谷 親水公園の自然再生

〈ふれあい推進センター〉

当センターでは、自然再生事業の新たな試みとして、四万十森林管理署管内にある高知県四万十市の黒尊渓谷親水公園周辺の自然再生に取り組んでいます。一一月二三日にその一環として四万十川地域住民の組織する「しまんと黒尊むら」一五名の協力により、親水公園に隣接する国有林面積約〇・三haに、カエデやヤマサクラ等広葉樹三〇〇本の植栽と、ニホンジカ防護ネット約三〇〇mの設置を実施しました。

ここは、平成一六年の台風一〇号に伴う集中豪雨により山腹の崩壊したところです。そのため、四万十森林管理署が平成一七年度に谷止工等の治山工事を実施し、クヌギ、ケヤキ、サクラを植栽したものの、ニホンジカの食害により全滅してしまいました。現在はタケニグサやフユイチゴ等ニホンジカの忌避植物のみが生育し渓谷美を損ねている状況にあり、このままでは林地がさらに荒廃する恐れもあるため、地域の方からも強い要望があったところです。

実施後には、地域の方々から感謝の言葉も寄せられ、今後は、植栽木が順調に生育するように、下刈等の保育作業を行い、健全な林へと育成していきます。

ニホンジカ防護ネット設置

植栽の様子

大道マツ試験地の稚樹の本数調整

〈ふれあい推進センター〉

一一月三〇日、高知県四万十町古屋山国有林において、地元住民及び四万十町役場から一一名の参加をいただき、「大道マツ試験地の稚樹の本数調整」を実施しました。

当該林内では常緑広葉樹の繁茂により発生したアカマツ稚樹が成長できない状態にあったことから、当センターが「森林生態系保全・再生事業」として、平成一六年度よりアカマツ保護林内に試験地（面積〇・一二ha）を設け、大道マツの再生に取組んでいます。平成一六年一〇月に稚樹の発生と成長の促進を図るため、繁茂した広葉樹の整理、林床の地かきを実施し、平成一七年度から二三年度においては、稚樹を育成するための下刈を実施しています。

平成二五年で九年を経過した試験地内の稚樹は、現在、順調に生育していますが、稚樹の間隔が狭く枝が当たる等の過密状態となっており、今後の良好な成長のためには、本数を調整する必要があると判断し今回の作業を計画しました。

登山道入口から、一五分程歩道を歩き現地へ到着した、参加者は、大道マツ再生事業の説明や稚樹の本数調整の実施方法の説明を聞

いた後、実際の作業に取りかかりました。

当日は、晴天で風もない絶好の作業日和となり、予定していた時間内に作業を終えることができました。

参加者からは、「この作業でマツが大きくなると思うと嬉しいです」などの感想が聞かれました。

ふれあい推進センターでは、今後もこうした取組を通して、地元と一体となった「大道マツ再生」を進めて行きます。

作業中

都会から、四万十川周辺の自然を体験

〈ふれあい推進センター〉

今年も神奈川県横浜市から神奈川学園中高校の生徒四三名が四万十川周辺のフィールドワークにやってきました。

一一月六日に、高知県四万十市西土佐の中半地区と茅生（かよう）地区を結んで四万十川に架かる「かよう大橋」の市道周辺において、橋の建設由来や道路周辺のシイやカシ類など広葉樹の樹木や植生について学習しました。その後、「NPO法人四万十学舎」に戻ってからは、スギ・ヒノキ・サカキ・シキミ等の葉を実際に触ったり臭いを嗅いだりして、樹木の特徴を体感する学習を行い、また、森林のニホンジカ被害や森林の働き等についても学習しました。

樹木の特徴を学習

今回は短い時間ではありましたが、四万十川周辺の自然について、貴重な体験ができたのではないかと思います。

森林教室「写真立てづくり」を実施

〈徳島森林管理署〉

一二月二六日、徳島県小松島市立目佐児童館で小学生二〇名を対象とした森林教室「写真立てづくり」を行いました。

最初に徳島県の森林の特徴や、森林が地球温暖化防止に役立っていること等について話をしました。つづいて、児童館の先生から写真立ての作り方や道具の使い方などの説明の後、当署が準備した、動物マスコット五種類（クマ、イヌ、パンダ、カブトムシ、クワガタ）及び「森からの贈り物」であるドングリ等を使って子供たちは見本を参考に早速作製に取りかかりました。

開始直後は、見本どおりに作っていましたが、時間を経るとともに、カブトム

何を作ろうかな

シの横にドングリ等を飾り付けたり、シカを作ったり、小屋を作ったりと、子供ならではの旺盛な創作意欲を発揮して、いろいろな作品ができあがりました。今回の森林教室はみんなに満足してもらえたようです。この目佐児童館は、過去にも同様の木工クラフトを行っている団体ですが、「森からの贈り物」であるドングリなどの材料を使った作製は行う機会がなかったとのことで、当署としては、今後もこのような森林教室（木工クラフト）を継続して実施していく予定です。

オリジナルの写真立て完成

森林教室「クリスマスリースづくり」を実施

〈徳島森林管理署〉

一二月二〇日、徳島市立西富田・新町児童館で小学生三五名を対象とした森林教室「クリスマスリースづくり」を行いました。子供たちが作製したのは、カズラやモミの葉、マツボックリを使ったクリスマスリースです。

今回の森林教室は最初にクリスマスでよく使われる「モミの木」について話をしました。子供たちは普段目にしないモミについての知識はまったく無いようでしたが、葉の匂いを嗅がせたり、根っこのイラストを見せながらモミ等の樹木は、根っこで山の土が流れないように押さえ込んでいることを説明すると感心して聞いていました。

リース作製方法の説明

クリスマスリースづくりは土台になるカズラ巻きからのスタートとなりました。子供たちは長いカズラをぐるぐるとリング状にする作業にとても苦戦していましたが、徐々に作業に慣れて、みんなしっかりとカズラのリングを作っていました。続いてモミの葉を自作のリングに差し込んでいく過程になりましたが、カズラの隙間が大きすぎて落ちてしまったり、反対に狭すぎてなかなか入らなかったりと、こちらでも苦戦していました。さらにモミのヤニで手がベタベタになり嫌がる子供もいましたが、モミの葉の匂いの元だよと教えると驚いたり感心しながら匂いを嗅いで、嫌がることなく作業を続けていました。

モミの枝どれにしようかな

最後はクロマツやカラマツのマツボックリ等と、サルトリイバラの実を使って飾り付けを行いました。森林教室の時間が終わると子供たちは自作のクリスマス

リースを「家の玄関や部屋に飾ります」笑顔で話していました。

最近の木工クラフトは間伐材を使用することが多いのですが、今回のクリスマスリースのように、単純に森の恵みを楽しむことにこそ環境に配慮した生活が送れる鍵があるのではないかと思いました。

「子供ゆめ基金体験の風リレーションシップ事業キッズデイ」

〈安芸森林管理署〉

一二月一五日、国立室戸青少年の家が主催する、「子供ゆめ基金体験の風リレーションシップ事業キッズデイ」のイベントに、当署職員四名が木工クラフト講師として参加しました。

この行事は、青少年自然の家の豊かな自然に触れたり、日頃体験できない行動を行ったりすることで、たくましく生きる子供たちの育成を図ることを目的に毎年行われており、当署も今年で三回目の参加となりました。

当日は幼稚園～小学校低学年二六名を対象にクリスマスツリーを作製しました。

まず木工の前に、森林や木材の働きを少しでも知ってもらうため、「森林からの贈り物」と題する紙芝居を魚梁瀬・西川森林事務所の山内さんがクイズを交えながら読み聞かせました。

「森からの贈り物」の紙芝居

子供たちは身の廻りの様々なものに木材が使われている事や、森林の大切さに驚きの声をあげていました。

その後クリスマスツリーの作製に取りかかり、職員で加工した間伐材のツリー材料を組み立て、星や雪だるまに切り抜いた木片に色をつけたり、職員が採取した、サルトリイバラ、ツルウメモドキ、ヒイラギ、マツボックリ、ドングリ等を思い思いに貼りつけました。

沢山ある色とりどりの木の実等を前に、どう飾り付けようかと戸惑っている子もいましたが、職員や大学生ボランティアのサポートを受け、楽しそうに作っていました。

松ぼっくりをたくさん使いボリュームあるツリーを作る子や、赤く塗ったムクロジの実をバランスよく貼りつけ上品に仕上げる子など、自由な発想で、個性的な作品がたくさんできていました。

また子供からは「この木の実の名前は？」「どこでとれたの？」などの質問がたくさんあり、木工を通じて森林に対する興味を持ってもらえたのではないかと思います。

クリスマスツリー完成